津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2024. 6. 3 NO 12

子育ては「山登り」

よく子育ては山登りに例えられますが、『次郎物語』で有名な作家　下村湖人という人は子育てを次のようなタイプに分けています。

①親が子どもを背負って登る。
②親が先に歩き、子どもを後からついてこさせる。
③子どもに道を教え、その道を覚えさせる。
④子どもに山を登ることを伝え、あとは自分で考えさせる。

それぞれご家庭ではいかがでしょうか？どの子育てがよいとか間違っているということを言うつもりはありません。どれもそれぞれ親は子どもを大切に思い、子どもに対して“こうなってほしい”という思いをこめて、日々、子育てをしているのですから、決してそれが間違っているということはないと思います。

しかし一方で、長い目で見て将来、どんな力を子どもにつけていきたいのかという視点も忘れてはいけないと思います。今、目の前の山に登ることができたとしても、将来、自分で別の山を登る時に、また、見知らぬ道を歩く時に最初の山登りの経験が生きるような子育てをする必要があるのではないでしょうか。教育は短期的な視点と長期的な視点との両方が大切だと言われます。これは学校教育においても家庭教育においても大切なことだと思います。ちなみに下村　湖人は⑤親が子どもの横に立ち、出会う様々な事柄について対話をしながら登ることが望ましいと述べています。毎日、毎日考えることは大変ですが時々、ふと立ち止まりながら、今、自分がしていることは本当に子どもの力となっているのだろうかと問い返しながら今後も学校の教育を振り返っていきたいと思いました。

一波が万波に…

学校だより NO１１で横断後のお礼の話を書きました。次の日、職員にもこの話をし、担任はこの話を子どもたちに伝えてくれました。数日後、校門前の横断歩道を渡ってくる低学年の児童が、きちんと振り返ってお礼をしている姿を坂の上から見かけました。また、別の日ですが、職員が出張から戻る際、高学年の女子３名が停まった車に対してお礼をしている姿を見かけたと聞きました。さらに２８日（火）の下校時には大雨とやや強風の中の下校で、道路に設置してある飛び出し坊やの看板が強風で倒れて車道に出ているのを６年生男子３名が起こしてくれているのを見かけました。このことは帰ってから担任に伝えました。

本校は７００名近くの児童がいます。登下校については地域・保護者の方に様々、ご迷惑をおかけしていることと思います。個々のことにつきましてはその都度、全校で指導を行っているところです。一方で学校としてこういう小さな、たった一人であってもよい行動をほめ、広げながら一波が万波に広がっていってほしいと思います。